



特別講演会のお知らせ

唾液腺モデルを用いた 臓器形成機構の解析

阪井 丘芳 教授

(本学歯学部9期生)

大阪大学大学院歯学研究科

高次脳口腔機能学講座顎口腔機能治療学

日時：平成22年10月6日(水)

16:30~18:00

会場：歯学部大講義室

唾液腺、肺、腎臓など多くの臓器は、胎生期に上皮の塊が生じ、立体的な分枝(枝分かれ)を繰り返し形成される。分枝は臓器を形作る上で必要であり、再生医療への応用も期待されている。唾液腺は、間葉組織に包まれた上皮細胞が増殖を繰り返し、電球状になり、分枝を開始するが、深く狭いcleft(切れ目)が生じることから分枝が始まり、上皮の増殖と分枝を繰り返して、ブドウの房状に分枝した立体構造を形成する。上皮細胞がどうしてある特定部位にcleftを形成し、分枝形成するかは未だに解明されていない。唾液腺をモデルとしてT7-SAGE法を用いて、cleftとbud(先端部)の遺伝子発現を解析し、cleftに発現する遺伝子群の中からbudに比較して、発現比(cleft/bud)の高い遺伝子を同定し、Fibronectin, E-cadherin, Btbd7を介した臓器形成機構の一部を解明した。

Ref.) Nature 423, 876-881, 2003

Science 329, 562-565, 2010

Science Signaling 3, ec239, 2010

なお、本講演会は各教育部の**大学院特別講義**を兼ねています(HBS研究部長)。

お問い合わせ：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

口腔分子病態学分野(林 良夫)内 線：5225